

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

羊毛でできた衣服は、洗濯の仕方に注意しないと縮んでしまうことがあります。このような現象は、どうして起こるのでしょうか。これは、羊毛のもっている性質によるものです。羊毛の表面には、スケールと呼ばれるギザギザしたうろこ状のものがああります。このスケールは、乾燥状態だと閉じているのですが、水にぬれると開きやすくなるという性質をもっています。スケールが開いた状態で強くこすったりもみ洗いをしたりとすると、繊維どうしがからみ合っすきまがなくなるフェルト収縮と呼ばれる現象が起き、縮んでしまいます。これを防ぐためには、押すように手洗するなど優しく扱うことが大切です。また、水の温度を途中で変えることも厳禁です。急な温度変化は、繊維に強い力をかけたのと同じことになり、やはり縮んでしまう原因となるのです。



スケールが開いている状態



スケールが閉じている状態

もう一つ忘れてはいけないことがあります。それは、羊毛がアルカリ性や高温に弱いたんぱく質でできているということです。アルカリ性の洗剤や高温のお湯で洗うと、繊維そのものが変質してしまい、羊毛が本来もっている柔らかさが失われてしまいます。それを防ぐためには、中性洗剤を使い三十度程度のぬるま湯で洗うのがよいとされています。最初から最後まで冷たいままの水を使ってもよいのではないかと思う方がいるかもしれませんが、それは洗浄力が落ちます。

衣服には取り扱い絵表示が付いていて、洗濯をする際に気を付ける内容が示されています。お気に入りのセーターやカーディガンなどを長く大切に着るためにも、洗濯の仕方について正しい知識をもっておきたいものです。

一 線部「このような現象」とありますが、何と呼ばれていますか。本文中から探し、**六字で抜き出し**なさい。


二 次は、衣服に付いている取り扱い絵表示の一つです。羊毛でできた衣服を本文の内容を踏まえて洗濯する場合、次の取り扱い絵表示の内容に加えて気を付けなければならないことは何ですか。あとの**1**から**4**までのうち、最も適切なものを**一つ**選びなさい。



- 1 アルカリ性の洗剤で洗うこと。
- 2 高温のお湯で洗うこと。
- 3 中性洗剤で洗うこと。
- 4 ぬるま湯で洗うこと。

答え

2 次の短歌を読んで、あとの問いに答えなさい。

秋暮れて今年もさむし午後はやく日かける庭の白菊の光り

きのしたりげん  
木下利玄

○ 右の短歌について、言葉のつながりや意味のまとまりから切れめを付けたらどこになりますか。次の**1**から**4**までのうち、最も適切なものを**一つ**選びなさい。「／」は切れめを表します。

- 1 秋暮れて／今年もさむし午後はやく日かける庭の白菊の光り
- 2 秋暮れて今年もさむし／午後はやく日かける庭の白菊の光り
- 3 秋暮れて今年もさむし午後はやく／日かける庭の白菊の光り
- 4 秋暮れて今年もさむし午後はやく日かける庭の／白菊の光り

答え

③ 中学生の川名さんは、小学生に「二ひきの蛙」を朗読することになりました。次は、【朗読する物語】と朗読するために気を付けることを書いた【川名さんのメモ】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【川名さんのメモ】

○ ……朗読の仕方の工夫  
 ▼ ……理由

○ 「黄色だね」のあとに間を取って、からかうような口調で読む。  
 ▼ はたけでばったりゆきあった二ひきの蛙が、けんかを始めるきっかけになる言葉だから。

【朗読する物語】

二ひきの蛙

新美 南吉

緑の蛙と黄色の蛙が、はたけのまんなかでばったりゆきあいました。

「やあ、きみは黄色だね。きたない色だ。」

と緑の蛙がいました。

「きみは緑だね。きみはじぶんを美しいと思っているのかね。」

と黄色の蛙がいました。

こんなふうに話しあっていると、よいことは起こりません。二ひきの蛙はどうとうけんかをはじめました。

緑の蛙は黄色の蛙の上にとびかかっていきました。この蛙はとびかかるのが得意でありました。

黄色の蛙はあとあしで砂をけとばしましたので、あいてはたびたび目玉から砂をはらわねばなりませんでした。

するとそのとき、寒い風がふいてきました。

二ひきの蛙は、もうすぐ冬のやってくることをおもいました。蛙たちは土の中にもぐって寒い冬をこさねばならないのです。

「春になったら、このけんかの勝負をつける。」

といって、緑の蛙は土にもぐりました。

「いまいったことをわすれるな。」

といって、黄色の蛙もめぐりこみました。

寒い冬がやってきました。蛙たちのもぐっている土の上に、びゅうびゅうと北風がふいたり、霜柱が立ったりしました。

そしてそれから、春がめぐってきました。

土の中にねむっていた蛙たちは、せなかの上の土があたりあたかくなってきたのでわかりました。

さいしょに、緑の蛙が目を見ました。土の上に出てみました。まだほかの蛙は出ていません。

「おいおい、おきたまえ。もう春だぞ。」

と土の中にもぐってよびました。

すると、黄色の蛙が、

「やれやれ、春になったか。」

といいつて、土から出てきました。

「去年のけんか、わすれたか。」

と緑の蛙がいました。

「待って待て。からだの土をあらいおとしてからにしようぜ。」

と黄色の蛙がいました。

二ひきの蛙は、からだから泥土をおとすために、池のほうにいきました。池には新しくわきでて、ラムネのようにすがすがしい水がいっぱいいたたえられてあります。

そのなかへ蛙たちは、とぶんとぶんととびこみました。

からだをあらってから緑の蛙が目をはちくりさせて、

「やあ、きみの黄色は美しい。」

といました。

「そういえば、きみの緑だってすばらしいよ。」

と黄色の蛙がいました。

そこで二ひきの蛙は、

「もうけんかはよそう。」

といいあいました。

よくねむったあとでは、人間でも蛙でも、きげんがよくなるものがあります。

(新美南吉「二ひきの蛙」による。)

一 この物語について説明したものととして最も適切なものを、次の1から4までの中から1つ選びなさい。

1 二ひきの蛙が協力して困難を乗り越える様子

2 二ひきの蛙が人も蛙も同じ生物だと悟る様子を、動作を表す言葉を用いてリズムよく書いている。

3 二ひきの蛙が友情を再確認していく様子を、緑の蛙の立場から話し言葉を用いて書いている。

4 二ひきの蛙がけんかをして仲直りする様子を、会話を多く用いて平易な言葉で書いている。

答え

二 この物語に描かれている季節を、次の1から4までの中からすべて選びなさい。

- 1 春
- 2 夏
- 3 秋
- 4 冬

答え

三 川名さんは、緑の蛙が話した言葉の朗読の仕方について考えています。あなたなら、――線部『』やあ、きみの黄色は美しい。』をどのように工夫して朗読しますか。あなたの考える朗読の仕方の工夫とその理由を、次の条件1から条件3にしたがって書きなさい。

条件1 【川名さんのメモ】の書き方を参考にし、○には朗読の仕方の工夫を、▼にはその理由を書くこと。

条件2 ▼は、物語の内容を踏まえ、物語の中の言葉を使って書くこと。

条件3 ○は、十五字以上、三十字以内で、▼は、四十字以上、六十字以内で書くこと。

○


▼


# 全国新聞

2009年(平成21年)6月20日(土曜日) (日刊)

6月20日 土曜日

政治	4面
国際	7面
経済	9・11面
スポーツ	16・17面
文化	20面
地域	26・27面

## 今も色あせない魅力

### 太宰治生誕100年

「走れメロス」「人間失格」などの作品を残した作家・太宰治(1909〜48)が、昨日19日で生誕100年を迎えた。各地で様々な催しが行われる中、太宰ゆかりの地、東京都三鷹市には、全国から多くのファンが訪れ、何年たっても色あせることのない太宰の魅力が改めて浮き彫りにした形となった。【関連記事20面】



「太宰治文学サロン」を訪れ、説明を聞く来館者

太宰が亡くなって、彼の39歳の誕生日でものが発見された48年(昭和23)年6月19日は、忌と呼ばれている。命

名したのは太宰と同郷で青森県出身の直木賞作家・今官一。太宰の作品「桜桃」にちなんで付けたと言われ、今年で61回目を迎えた。太宰にゆかりのある各地には、今年も多くのファンが集まった。友人と一緒に太宰の墓のある禅林寺(三鷹市下連雀)を訪れた千葉県の会社員(33)は「中学生のときに『走れメロス』を読んで以来、太宰ファン。弱さを隠さない純粋さが最大の魅力。今もお新しい発見がある」と語った。

太宰が晩年を過ごした三鷹市では、昨年3月、太宰が通った伊勢元酒店の跡地に「太宰治文学サロン」を開設した。「このサロンは展示された資料を見るだけでなく、訪れた太宰ファンが様々な情報や自分の思いを語り合える交流の場にもなっている」と関係者は語る。

今日は、18日までに延べ2485人が来館。昨日は1179人が訪れ、1日当たりの来館者数としては過去最高を記録した。サロンを訪れた京都府に住む大学3年生(21)は「ここで初めて出会った人と太宰の話で盛り上がった。外国人の太宰ファンも来ていて驚いた。また来たい」と笑顔で話した。

シリーズ  
広がる「食育」

最終回

「弁当の日」という取り組みが全国の学校に広がっている。香川県のある小学校では、5・6年生の児童が、年5回自分たちだけで作った弁当を食べている。ここでのねらいは、子どもの「自立」。自分の食べるものを自分で作ることを通

食育の思いを育てる

して生まれる自信や、多くの人のおかげで食事をすることができるといふ気持ちが自立につながると思われている。全国的に見ると、学校給食に地域の食材を積極的に取り入れたり、伝統的な郷土料理を献立に盛り込んだりすることも広く行われている。これは地域の産業に対する理解を促し、伝統的な食文化を継承

しようとする思いを育てることになる。「食育の日」に合わせて、今週は各地の様子を紹介してきた。食に関する取り組みは、健全な心身の成長と、自分を取り巻く人々の思いを理解することに繋がる。食への思いを育てる様々な取り組みに今後も注目していきたい。

コラム

最近、文学作品を身近に感じさせる動きが盛んだ。文庫本のカバー一つとつてみても、人気漫画家によるイラストや、芸能人の写真がデザインされているものがあり、文学ファンでなくても思わず手に取りたくなってしまふ▼横書きで書かれた小説や電子書籍の売れ行きも好調であると聞く。今に始まったことではないが、いわゆる名作を漫画化したものが売れている現実も見逃せない▼こうした動きは、特に若い世代に向けて、文学作品との新しいかわり方を提案していると言つてよいだろう。作者や内容にひかれるもよし、本のカバーにひかれるもよし、出会い方は自由であつてよい。本の魅力を知る機会を得ることが大切なのだ▼文学作品との出会い方や味わい方が多様化しても、本に描かれた世界を通して自分なりに価値を発見したり、新たな自分を創造したりしていくことに変わりはない▼来年は国民読書年。本を手取る若い世代を大いに歓迎したい。

一 「太宰治文学サロン」が開設されたのはいつですか。次の(ア)と(イ)に当てはまる数字をそれぞれ書きなさい。

【「太宰治文学サロン」が開設された年月】

平成(ア)年(イ)月

答え(ア)

答え(イ)

二 この紙面のトップ記事「今も色あせない魅力 太宰治生誕100年」と「コラム」との書き方の違いを説明したものととして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 トップ記事は結果を示してからその背景や原因を書いているが、コラムは時間の経過に沿って順番に書いている。
- 2 トップ記事は事実を中心に客観的に書いているが、コラムは事実だけでなく書き手の意見や感想も交えて書いている。
- 3 トップ記事は最新の出来事取材した上で書いているが、コラムは過去の情景を的確に描写しながら書いている。
- 4 トップ記事は様々な事柄を示してから結論を書いているが、コラムは結論を述べてからその根拠となる事柄を書いている。

答え